

平成 25 年度 事業報告書

I 概 況

平成 25 年は自民党への政権交代がなされ、安倍政権による“アベノミクス”効果でデフレ克服が最大の目標となり、インフレターゲット 2%とし、それも現実味を帯びてきた。円安、株価の回復によって 2 年連続で明るい景況観に包まれた。25 年度の日本経済は、大幅な金融政策、機動的な財政政策、そして民間投資を喚起する成長戦略のいわゆる「三本の矢」による政策効果で家計・企業のマインドが改善し、実質 2.6%、名目 2.5%程度の成長が見込まれている。

26 年 2、3 月には消費税増税前の駆け込み需要等で市場は久々に活況を呈した。これは、個人消費の拡大、民間設備投資の回復、公共工事や復興需要による建設業界の活況が後押しした。雇用者数も増加を続け、失業率も 3.6%（26 年 2 月分）と好転を続けている。さらに政府は、経済界へ対し異例とも言える賃上げ要請を行う等、景気回復と消費税増税ショックを和らげるための行動が目立った。ただ、4 月からの消費税増税の反動による影響は予断を許さない。政府は堅調な内需による景気回復が続き、経済政策の推進によって 26 年度の GDP は実質 1.4%、名目 3.3%を目論んでいる。

また、2020 年東京オリンピック・パラリンピック招致決定は、日本国中に歓迎の声が渦巻き、大きな希望となった。東京都では、猪瀬直樹都知事の辞任により、舛添要一知事が誕生した。

▽ アベノミクスは印刷業界に波及せず

さて、印刷業界では出版不振に加えて、原材料の高止まりと需要全体の落ち込みが続き、「平成 24 年経済センサス活動調査（従業者 3 人以下を含む全数）」によれば、平成 23 年の印刷・同関連業の出荷額は、5 兆 7,086 億円と、下げ幅は対前年比 7.6%減。24 年は推定 5 兆 6,000 億円で対前年比 1.7%減にとどまったようだが、アベノミクス効果は及んでいない。印刷事業所数、就業者数も毎年縮小を続けている。出版と証券印刷が減少し、生活系の建装材、包装印刷が伸びている。ただ 26 年 3 月年度末は、増税前の駆け込み需要があり、納期遅れが出るほどの受注増もみられた。

出版社を中心として、増加する海賊版に対抗するために著作権法改正問題が浮上し、文化庁による 1 年間に及ぶ審議を経て、平成 26 年 4 月に衆参両院を通過し、改正された。これは、海外からの海賊版対策と電子書籍の急速な普及に現在の著作権法では対応できないという出版社側の権利付与の動きに端を発し、日印産連でも著作隣接権ワーキング委員会を立ち上げ、1 年余の検討を経て、対応を協議し意見をまとめた。今後、著作者と出版者の関係は、「契約」を中心に新たな関係へ進むこととなる。法施行は平成 27 年 1 月 1 日。

一昨年に発生した胆管癌問題を契機に印刷産業全体で労働安全衛生への注意を喚起すべく、24 年に日印産連では労働衛生協議会を発足させ、基本方針を策定し、報告書、化学物質による健康障害防止対策のパンフレットを作成し、25 年度も啓発活動を進めた。一方、グリーンプリンティングマーク（GP）の審査基準も労働安全面を加味した改正がなされる。

さて、印刷需要は質的に変化を遂げている。これはメディア全体の変化として受け止め、少子高齢化による印刷物の自然減、エコ対応などの要因がある。また、SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サ

ービス)、電子書籍、AR(拡張現実)などの普及もあり、印刷とデジタルの融合は一層進んできている。一方、印刷通販の拡大が続き、受注構造の変化がみてとれる。

ジャグラは、公益法人改革によって平成26年4月1日をもって一般社団法人へ移行した。公益目的事業では、個人情報保護(プライバシーマーク制度)の推進、インターネット放送「ジャグラBB」の利活用、DTP教室の運営を3本柱とした。今後も、経営・教育・技術面で研究を重ね、一方で会員間・支部間の交流を促進し、新規需要、顧客掘り起こしを目指している。特に、年賀状デザインコンテストは会員の参加を得て実施、入賞作品デザインは広く会員に利用された。

▽ 公益目的事業は「個人情報保護」

東京グラフィックスは、平成25年4月1日から公益社団法人へ移行し、1年が経過した。

「公益目的事業」の第一は、個人情報保護とし、従前からの経営・マーケティング、教育・技術、CSR活動は「収益事業」として引き続き実行し、会全体の運営は公益社団法人、ジャグラ東京都地協、共済会の3つが有効に機能し合うことになった。

今期のスローガンは、『顧客重視に徹する業界』とし、「会員企業の経営力強化と自社の特長と強みをデザインすることを支援する」ことを目標に、事業の柱を、①情報、②教育、③CSR・BCP、④交流に据えた。

公益目的事業である個人情報保護については、認定個人情報保護団体として、個人情報保護法に基づき、都民・一般消費者から個人情報に係る苦情・相談を受け付けた。11月には「個人情報保護 要点ガイド」(A4版16頁)のパンフレットを発行。このパンフを元に個人情報保護セミナーを実施し(参加者25人)、安全管理面での注意点や「営業秘密管理指針」「マイナンバー制度」の紹介も行った。同時にプライバシーマークの付与認定活動を進めたが新規の申請はなかった。因みに、3月までの当会会員の付与認定事業者数は91社にのぼる。情報提供では、月刊「東京グラフィックス」誌で毎号個人情報保護シリーズ、営業秘密管理、リスクマネジメントについて紹介している。

▽ 委員会・ワーキンググループ(WG)活動

委員会体制は、経営委員会(マーケティングWG、CSR・環境WG)、教育・技術委員会(教育WG、技術WG)、総務委員会の3委員会とし、BCPについては特別対策委員会を設置した。各委員会・WGは、支部を横断する形で事業を推進した。

組織面では総務委員会を中心に、加入促進の対象企業を絞り込み新規加入へ向けた活動を実践した。前年度は5社が加入したが、18社が退会し、会員数は325社と減少傾向に歯止めはかからなかった。

支部対策特別委員会では、城北支部が休眠状態になったことから対応策を協議した。

事業面では、東京グラフィックスフェスタ「ビジネスアイデアコンテスト…モノづくりからコトづくりまで…」をFACEが中心となって企画、運営した。応募は、80作品。第1位には(株)向陽デジタルワークスの「ケアログ」が選ばれた。

教育WGは、様々なテーマで「仕事に“元気”が出るセミナー」を企画・運営した(主催は東京グラフィックス支部)。合計7タイトル開催し、延べ233人が受講した。

他に、各種人材育成研修や都立中央・城北職業能力開発センターとタイアップしてDTP、カラー印刷等で向上訓練を実施した。

技術WGは、前年度から検討してきた新技術に対応し、従前の技能・技術継承も含めた“教科書”作成へ準備を進め、東京都中小企業団体中央会の助成を受け、フレッシュマンのための『印刷読本』(A4

版 112 頁) を発行した。

ジョブ・カード制度の利用では 4 月に新入社員を対象に日本プリンティングアカデミーにおいて Off-JT 研修を 1 ヶ月間実施した (参加は 2 社 12 人)。

マーケティング WG は、「地域密着型営業」を研究テーマに掲げ、メンバーによる研究・実践事例報告とパネルディスカッションを開催したほか、企業データ (公開情報) の活用による営業手法の検討などを行った。

BCP 特別対策委員会は、理事を中心に組織し、震災・パンデミックを想定した事業継続計画 (BCP) については、会員企業による取り組みの紹介をはじめ計画段階から実施へ向け「演習」を取り込み、会員 1 社 1 社の実践段階への参加を促した。ジャグラは、ポケット版「地震発生時の防災マニュアル」を作成し配布した。

▽ 青年部・自主研究会・サークル

青年部は、「FACE」に改組後、30 人余のメンバーを再登録し月 1 回の定例会をはじめ、セミナーを開催、また印青連の事務局を当会が引き受け関連団体との連携を強化、ジャグラの SPACE21 で全国青年部との交流を深め、2 月には印刷 4 団体が主催し名古屋で開かれた Print Next に 25 人の FACE メンバーが参加した。

自主研究会活動では、「社長講座」が経営だけでなく文化・芸術など幅広いテーマで勉強会を開催した。「CSR 自主研究会」では、『BCP 演習』をセミナー形式で開催した。「市場開拓自主研究会」では、『みんなで市場開拓をしよう』を合言葉に精力的に新規開拓と新商材の利用を研究し、名刺のプリントオーダー、オンデマンド用スクラッチ加工、AR 技術の検討など、会員事業所見学による共同受注も志向した。

また、女性の会「レインボウ」や業界 OB の「悠遊クラブ」が独自の活動を進めた。

なお、財政面では、予想以上の会員減少とプライバシーマークの収入が予算を下回り、一方、予算計画の立案が 24 年 9 月 (東京都へ提出) と 1 年以上前だったため、結果として支出増となり赤字決算となった。

事務局機能については、個人情報保護活動に加え、会員ニーズに応え合理化に努め情報提供、委員会活動の充実に努め、会員サービスに引き続き努力した。

東京グラフィックスでは以上のように厳しい状況で推移したが、事業計画に掲げた計画は概ね遂行し、今期を終えることができた。

Ⅱ 事業報告

【公益目的事業 1 個人情報保護の事業】

① 認定個人情報保護団体の活動〔定款（事業）第5条2〕

個人情報保護法に基づく認定個人情報保護団体として、都民・消費者と会員企業間での個人情報に関する苦情・相談を受け付け、解決へ向けた活動を行った。窓口として担当副会長、個人情報保護委員会および事務局が、経済産業省、東京都、(一財)日本情報経済社会推進協会と協議しながら解決にあたるが、今期は相談事案のみで苦情受付はなかった。

なお、プライバシーマーク指定審査機関はジャグラへ移行しているが、プライバシーマーク制度の普及のために、当会会員への審査業務活動は継続した。

今期は、「個人情報保護要点ガイド」(A4版16頁)を1,000部作成した。

■ 認定個人情報保護セミナー

- ・開催日：11月19日
- ・会場：ニッケイビル会議室
- ・参加：25人
- ・講師：斎藤成 東京グラフィックス専務理事

【その他事業 1 環境保全・資源リサイクル等推進の事業】

② 環境保全・公害防止、資源リサイクル、節電の推進〔定款（事業）第5条4〕

経営委員会は、環境保全・公害防止、資源リサイクルのため、ジャグラ環境委員会と連携して、グリーン購入法に基づく日印産連・オフセット印刷ガイドライン、PRTR法を含む各環境関連法令、東京都環境確保条例等を、会員企業に紹介・周知し、遵守を促した。

節電については、政府の節電ポータルサイト「節電 go.jp」と連動した告知を当会ホームページ上で実施したほか、当会ホームページのコンテンツ「待ったなし 役立つ節電ブログ」で節電例を紹介した。

労働安全衛生面では、業界全体の課題である胆管癌発生の事象に対する知識の公開や有機溶剤への対応を周知した。「事業者が講ずべき化学物質のばく露防止対策(東京労働局)」を機関誌4月号で紹介した。「働く人のメンタルヘルスガイド(東京都労働相談情報センター)」を機関誌3月号で紹介した。

③ BCP演習、地域防災計画の策定〔定款（事業）第5条4〕

経営委員会 CSR・環境WG及びBCP特別対策委員会が中心となって、会員企業のBCP策定支援に加え今期はBCP事業の拡充・深化を標榜し、主としてBCPの演習を計3回実施した。特に第1回演習では、実際にAEDを用意し、緊急時の操作方法を体験し経験を積んだ。

■ BCP演習 第1回「BCP演習キックオフミーティング」

- ・開催日：7月30日
- ・会場：ニッケイビル会議室
- ・参加：15人
- ・内容：AED体験・新規BCP策定、演習への呼びかけのためのセミナー形式ミーティング
- ・講師：山岸吉輝氏(キャノンシステムアンドサポート(株))

■ BCP 演習 第2回「BCP 演習の概要・準備・実践方法の理解」

- ・開催日：12月18日 ・会場：ニッケイビル会議室 ・参加：10人
- ・内容：机上演習と個人・グループでの検討
- ・講師：山崎吉輝氏（キャノンシステムアンドサポート(株)）

■ BCP 演習 第3回「各社での取り組み状況の共有」

- ・開催日：平成26年3月13日 ・会場：ニッケイビル会議室 ・参加：10人
- ・内容：地震関連情報と各社の取り組み状況の共有
- ・講師：山崎吉輝氏（キャノンシステムアンドサポート(株)）

機関誌9月号において「BCPを実践する」と題して、会員企業（第一資料印刷(株)、(株)創土社、(株)三進社）の事例を特集した。そのほか官公庁が発表する地震関連情報（東京都帰宅困難者対策条例、震災時火災における避難場所および避難道路等の指定）を機関誌上で紹介した。

さらにジャグラと連携し、ポケット版「地震発生時の防災マニュアル」（作成・発行はジャグラ）を会員企業に配布した。

【その他事業2 文化の普及啓発および雇用安定・人材育成事業】

④ キャリア形成促進助成金の「OJT付き訓練」への協力【定款（事業）第5条3】

教育・技術委員会（ジョブ・カード構築部会）が所管し、キャリア形成促進助成金事業としてジョブ・カード制度（実践型人材養成システム）による研修を実施した。今期は会員企業から2社12人が同制度に参加した。4月5日から1ヵ月間、日本プリンティングアカデミーにおいて東京グラフィックスが策定したOff-JTカリキュラムを同校で実施し、4月30日にOff-JTカリキュラム修了式を執り行った。

以降9月30日まで6ヵ月間、訓練生は自社においてOJTカリキュラムに取り組んだ。

⑤ 雇用の安定、就業への協力【定款（事業）第5条3】

東京都立中央・城北職業能力開発センターからの求職、その他デザイン学校との連携を強化し、関係機関と協力し、若年層の雇用促進・安定に努めるインターンシップ、合同面接活動に協力した。キャリア形成促進助成金制度以外にも、新規学卒者や未経験労働者の雇用促進に力を注いだ。

65歳継続雇用を研究し、とりわけ高齢労働者の活用、年金との関係については機関誌に「年金制度の基礎知識」を6回連載し、啓発した。執筆は税理士・荒牧瑞枝氏。

身体障害者の就労については、東京障害者技術専門校とタイアップし合同面接会を実施した。

さらに「ワークライフ・バランス」は、従業員の就労と生活を両立させる上で重要であることから、啓発に努めた。

⑥ 技術セミナー等の開催【定款（事業）第5条1】

教育・技術委員会は、東京都立中央・城北職業能力開発センターと協働して、会員企業の従業員向けにプリプレス～印刷の技術習得・向上を目的とした講習会を開催した。

■「カラー印刷基礎講座」

- ・開催日：1月10日、1月15日、1月17日、1月22日、1月24日、1月29日
- ・会場：東京都立中央・城北職業能力開発センター ・参加：14人
- ・内容：Photoshop、Illustrator、InDesignによるDTPとカラー印刷の基礎
- ・講師：東京都講師他

また、同センターと、当会・東京都印刷工業組合・東京グラフィックコミュニケーションズ工業組合の3団体の協働で、技術講習会（オーダーメイド講習）を開催したほか、同センターの各種キャリアアップ講習の周知・参加呼びかけを行った。

東京グラフィックスとジャグラ・カラー印刷技術委員会との協働による「POD クラベール」の開発を通じ、カラー印刷をはじめ業界の技術動向について周知を行った。

⑦ 新技術教科書の作成【定款（事業）第5条1】

教育・技術委員会（技術WG）は、平成16年に発行した「これだけは知っておきたい印刷の基礎知識」の改訂版を、「印刷技術職・営業職フレッシュマンのための印刷読本」として平成26年1月31日付で発行し、会員企業に配布した。

東京都中小企業団体中央会の平成25年度技術・技能継承事業助成金を活用し、体裁・内容をリニューアルした。計4回の助成金事業会議を開催し、WG委員および専門委員が中心となって企画・執筆・編集にあたり、会員・賛助会員にも協力を仰いだ。

⑧ 都民のための印刷相談業務【定款（事業）第5条1】

総務委員会は、東京グラフィックスのホームページにより、都民への印刷技術の普及啓発および情報発信について広く公開した。同時に事務局にて、各種印刷や自費出版等に関連する相談業務にあたった。また、各行政区レベルの産業展等（台東区「モノマチ」、文京区「ぶんぱく」など）における“印刷”の普及啓発活動への協力・情報発信を行った。

⑨ 「東京グラフィックスフェスタ（ビジネスアイデアコンテスト）」の実施【定款（事業）第5条5】

東京グラフィックスフェスタ2013として、青年部FACEが所管し「ビジネスアイデアコンテスト」を実施した。

8月から募集を開始し、会員企業および一般に応募を呼びかけた（一般からの応募は会員企業経由）。10月末に募集を締め切り、計80作品の応募があった。

書類審査を経て最終候補を12作品に絞り、12月19日に候補者によるプレゼンテーションおよび最終審査を行った。プレゼンテーションの内容はインターネット動画配信「ジャグラBB」で放映した。書類審査、最終審査、協賛では賛助会員、報道機関の協力を仰いだ。

7作品が入賞し、平成26年1月15日、東京グラフィックス新春賀詞交歓会の席上、表彰式を執り行った。さらに入賞作品についてはA4判・12ページの「抄録集」に内容をまとめた。

⑩ 地域（支部）組織改革【定款（事業）第5条5】

地域（支部）組織改革は、具体的には行わなかった。

【共益事業】

(1) 経営・マーケティング事業

① 「地域密着型営業」手法の研究・実践〔定款（事業）第5条5〕

経営員会（マーケティング WG）は、新規開拓・マーケティング手法の研究として、「地域密着型営業」をテーマに、会員企業の事例発表とパネルディスカッションを開催した。

■ 新規開拓作戦会議

- ・開催日：7月25日
- ・会場：ニッケイビル会議室
- ・参加：パネリスト7人、参加者33人

② 企業情報の活用〔定款（事業）第5条5〕

経営委員会（マーケティング WG）は、日本全国の企業情報（公開情報）を新規開拓・マーケティングに活用する方法を研究した。膨大な企業情報の中から、業種・企業規模・所在地域などで絞り込みをして、新規営業のターゲットをリストアップ・マッピングして、営業活動に活かすという狙い。賛助会員の協力を仰いで実施した。同事業は研究中であり、継続実施する予定。

③ 3Dプリンター見学会〔定款（事業）第5条1〕

教育・技術委員会（教育 WG）は10月21日、3Dプリンターの現状と動向を視察する目的で、3Dプリンター輸入代理店「BRULE」ショールーム（千代田区外神田）と、東京女子医科大学・早稲田大学連携先端生命医科学研究施設「TWIns」（新宿区若松町）の見学会を開催した。参加8人。

経営員会（マーケティング WG）は、3Dプリンターを導入した会員企業・昭栄プロセス㈱（台東区元浅草）の見学会を開催し、3Dプリンターの活用事例などを視察した。参加7人。

④ 市場開拓自主研究会の活動〔定款（事業）第5条5〕

研究会を11回開催した。賛助会員と協力して、商材開発、販路開拓を主とした研究テーマに掲げた。具体的には、前期からの継続事業として、夏商戦向けの紙扇子を作成し、メンバーに配布した。

今期は特に見学会に力を入れ、メンバー企業の㈱トミナガ（荒川区東日暮里）においてレーザー彫刻工程の見学会を6月13日に実施した。参加者は10人。

東京紙器工業組合主催の「ハコの日」イベント「BOX2013」（8月3～4日）に出展し、研究会で開発した紙扇子、ストーンペーパー商材のほか、メンバー企業の缶バッジ、レーザー彫刻サンプルを出品・展示した。

9月20日に紙器組合所属の日包興業㈱・森下工場の見学会を実施した。参加者は10人。ほか今期に扱った商材として、写真品質の年賀状、フォトブック、AR事業、プリントオーダー（Web入稿名刺受注システム）、疑似ラインストーン、熱転写プリント・シャルール等があり、商材改良、販路開拓を行った。

(2) 教育事業〔定款(事業)第5条1〕

教育・技術委員会(教育WG)は、会員企業および一般都民を対象に、さまざまなテーマで「仕事に“元気”が出るセミナー」を企画・運営した。平成25年度(25年4月～26年3月)は、7タイトル開催し、延べ233人が参加した

① セミナー「知っておきたい特殊印刷・加工/スクリーン印刷」

- ・開催日：4月16日 ・会場：ニッケイビル会議室 ・参加：28人
- ・内容：スクリーン印刷の基礎知識～コラボのポイント、他
- ・講師：宮坂次郎氏(株新興グランド社)、吉田純一氏(株吉田製作所)
- ・主催：東京グラフィックス千代田支部

② セミナー「知っておきたい特殊印刷・加工/紙器・パッケージ」

- ・開催日：6月20日 ・会場：ニッケイビル会議室 ・参加：47人
- ・内容：紙器・パッケージの基礎知識～コラボのポイント、他
- ・講師：大瀧敏裕氏(大瀧印刷紙器(有))、篠崎正之氏(株パックウエル)
- ・主催：東京グラフィックス文京支部

③ セミナー「貴社のホームページ、本当に商売に役立ってますか!？」

- ・開催日：8月22日 ・会場：ニッケイビル会議室 ・参加：33人
- ・内容：Webサイト診断、成果を挙げるWeb戦略、他
- ・講師：高畑卓氏(株ジェイコス)
- ・主催：東京グラフィックス港支部

④ セミナー「知っておきたい特殊印刷・加工/製本加工」

- ・開催日：10月2日 ・会場：ニッケイビル会議室 ・参加：42人
- ・内容：製本の基礎知識～コラボのポイント、他
- ・講師：井上正氏(和光堂製本(株)=現・和光堂(株))
- ・主催：東京グラフィックス新宿支部

⑤ セミナー「社員が自主的に考えそして動く!会社の“ルール”」

- ・開催日：11月6日 ・会場：ニッケイビル会議室 ・参加：23人
- ・内容：業績を上げる原理原則、人が動く「ルール」の作り方、他
- ・講師：桑原和弘氏(株フリスコ)
- ・主催：東京グラフィックス教育WG

⑥ セミナー「これだけは押さえておきたい!“就業規則”と“労基法”」

- ・開催日：1月23日 ・会場：ニッケイビル会議室 ・参加：23人
- ・内容：・採用時に揃えておきたい書類、行政へ届け出ることが義務づけられている書類、他
- ・講師：松山純子氏(松山純子社会保険労務士事務所)

・主催：東京グラフィックス千代田支部

⑦ セミナー「3Dプリンターで何が出来る!? 何が変わる!？」

・開催日：2月27日 ・会場：ニッケイビル会議室 ・参加：37人

・内容：3Dプリンターとは何か、グラフィックサービス産業にどのような変化をもたらすか、他

・講師：寺田知太氏（榊野村総合研究所）

・主催：東京グラフィックス城東支部

(3) その他〔定款（事業）第5条5〕

① 組織拡大

総務委員会が所管して、組織拡大のための入会勧誘活動を実施した。今期は千代田地域を対象とした。まず委員会で入会勧誘先として10～20社程度の印刷・グラフィックサービス関連企業をリストアップした。同リストの企業宛てに、団体紹介パンフレット「きっかけは東京グラフィックスから」と各種案内、会員企業が手掛ける特徴的なグッズ類（缶バッジ、ミニカレンダー等）を同封したDMを送付した。そのうえで、担当委員がリスト先に直接往訪した。実際に入会には至っていないが、数社が東京グラフィックスに関心を示したことから、今後もコンタクトをとっていく。

上記活動の手順・ポイント等を「加入促進3ステップマニュアル」としてまとめた。これを活用して、来期も引き続き、総務委委員会と各地域が連携して入会勧誘活動を実施していく。

② 賛助会員懇談会

総務委員会は、東京グラフィックス賛助会員懇談会を11月13日、アルカディア市ヶ谷において開催した。参加者は賛助会員30人、理事・委員20人。東京グラフィックスの事業・取り組みを賛助会員に報告し、東京グラフィックスへの理解を深めてもらうことが目的。

③ 新春賀詞交歓会

公益社団法人東京グラフィックサービス工業会の2014年新春賀詞交歓会は1月15日、文京区関口の「椿山荘」において開催された。参加者は250人。

同席上にて、東京グラフィックスフェスタ・ビジネスアイデアコンテストの表彰式を開催した。

④ 青年部「FACE」の活動

FACEは3月を除く月1回、定例会を開催した。事業は、事業チーム、教育チームに分かれて担当して推進した。5月9日に総会をニッケイビルで開催し、平成25年度事業、予算を承認した。

教育チーム所管による、コミュニケーションを円滑にするための「魔法の質問セミナー」を総会前段で開催した。講師は浅香美鈴氏。参加者は30人。同セミナーは連続開催として再構築、後3回に分けて「3ステップセミナー」として実施した。3回とも講師は浅香氏。開催日・参加者はそれぞれ9月21日・参加者25人、11月16日・参加者20人、平成26年2月1日・参加者15人。

事業チームでは、ビジネスアイデアコンテストを所管、実施した（詳細はビジネスアイデアコンテスト事業を参照）。

⑤ 自主研究会「社長講座」の活動

東京グラフィックス自主研究会「社長講座」は会員有志の自主的な勉強会として、経営問題だけでなく、文化・芸術など多彩なテーマでセミナー・研修会を開催し、セミナーは会員や一般都民にも開放している。

2013年度メンバーは13人。定時総会は6月26日、中央区銀座「天厨菜館」にて開催。参加10人。

■ 芸術セミナー「地中海美術 四千年の魅力に迫る」

- ・開催日：8月6日
- ・会場：ニッケイビル会議室
- ・参加：9人
- ・内容：「ルーヴル美術館展」のみどころ紹介
- ・講師：佐藤よりこ氏（美術史家）

■ セミナー「新聞折り込み広告の歴史と今日」

- ・開催日：11月7日
- ・会場：ニッケイビル会議室
- ・参加：11人
- ・内容：クライアントに提案できる“印刷物”としての魅力と可能性
- ・講師：鍋島裕俊氏（折込広告文化研究所）

■ 芸術セミナー「“黄金比”とは何か？」

- ・開催日：12月16日
- ・会場：ニッケイビル会議室
- ・参加：10人
- ・内容：「黄金比」の解説、美術作品鑑賞
- ・講師：佐藤よりこ氏（美術史家）

■ セミナー「今さら聞けない“消費税率アップ”」

- ・開催日：2月25日
- ・会場：ニッケイビル会議室
- ・参加：8人
- ・内容：消費税率アップに向けての注意点、他
- ・講師：山手洋二氏（税理士法人よしとみパートナーズ会計事務所）

⑥ 女性の会レインボウの活動

レインボウ独自事業として、勉強会を開催した。今期の勉強会テーマは「美文字」。習字もしくはペン字の練習を重ねた。開催日・開催場所・参加者はそれぞれ8月29日・新宿区の会議録研究所会議室、参加者は10人。12月2日、新宿区の会議録研究所会議室、参加者は10人。講師はいずれも書道家の花井政美氏。

平成26年3月14日（金）、台東区浅草・はぎわらにおいて、平成25年度総会を開催した。本部からは野上光之副会長、吉野主計相談役が来賓として出席した。出席人数は来賓合わせて10人。